

3. 広島県立広島高等女学校 III

5. 楽しい思い出

(1) 修学旅行

県女第一回生は岡山に行ったが、やがて伊勢神宮、桃山御陵を中心とする関西旅行が、最終学年の秋に実施されるようになった。昭和になると、県女の修学旅行は豪華版だと評判になるようになった。特に1934(昭和9)年からは、全学年で実施された。その行き先は次のようであった。

第一学年 岡山, 鷺羽山方面(2泊3日)

第二学年 湯田, 長門峡, 萩, 秋芳洞(2泊3日)

第三学年 賃切りの船にて, 宇品より琴平, 屋島, 高松, 鬼が島, 小豆島, 鞆(3泊4日)

第四学年 別府, 宮崎, 鹿児島, 熊本, 阿蘇, 博多, 香椎(7泊8日)

第五学年 京都, 伏見, 奈良, 吉野, 伊勢, 箱根, 鎌倉, 東京, 日光, 長野, 金沢(10泊11日)

こういった豪華な修学旅行の背景には、当時の女性には、なかなか見聞を広めるための旅行などは、個人的には出来にくいということがあったらしい。しかし、これも1940(昭和15)年の文部省の修学旅行制限通達によって3泊4日の修学旅行に変わった。



1920(大正9)年 伊勢神宮 1938(昭和13)年 桜島

(2) 林間学校

三年生以上の希望者が参加する福王寺や佛通寺での林間学校には、毎年50名から70名の参加者があった。生徒達は鐘を合図に起床し、早朝掃除、食前食後の読経、宗教講話を聞く毎日で7日間を過ごした。



可部福王寺での食事風景

(3) 田園生活

夏休みを利用して、7日～10日間実施され参加者は30人～40人、であった。場所は、三次の覚善寺、八重の実業高校(現千代田高校)大朝の圓立寺、道後山、出雲などが選ばれ、大自然の中で鋭気を養い、体を鍛えるといった生活がくりひろげられた。



道後山

(4)臨海生活

従来の希望者による倉橋島、宮島での臨海生活が、一年生全員と二年生以上は希望参加の形になり、場所も安芸郡坂村(坂町)に変わった。宇品から数隻の蒸気船に乗り7日間坂村海岸に通い、最終日には二キロの遠泳が課せられた。



1924(大正13)年 倉橋島

(5)摂政宮(後の昭和天皇)来校

1921(大正10)年、大正天皇は病弱のため、皇太子迪宮裕仁親王(昭和天皇)を摂政に任命した。その摂政宮殿下が1926(大正15)年5月中国地方を行啓された。本校には5月25日午後浜田広島県知事の先導で来校された。その後本科の化学の授業と専攻科の家事の授業を御覧になられた。



西練兵場での観閲式に参列 本科4年生の化学の授業

(6)戦時体制始まる

第一次世界大戦(1914～1918年)後、民主主義・自由主義は世界的風潮となったが、ベルサイユ体制の崩壊とともに、満州事変(1931)、上海事変(1932)、などが起こった。中でも廬溝橋事件(1937(昭和12年))がおこると軍都広島は、にわかにあわたしくなり、静かであるべき学校も戦時色が濃くなってきた。そのころ国内では、「国家総動員法」(1938(昭和13年))が出され、学校や家庭にも出征兵士が宿泊し、生徒は出征兵士を宇品港に送り、千人針を奉仕し、慰問文や慰問袋を作る生活が続いた。



1940(昭和15)年出征将兵遺家族慰安会 紀元2600年祝賀観閲式で行進する生徒
広島県立広島高等女学校 III おわり